

会員の出した本

『倉敷・水島——日本資本主義の展開と都市社会』

(東 信堂、一九九二年)

本書は、布施鉄治教授をリーダーとする研究グループの総力をあげた都市社会形成と展開に関する大作である。周知の通り、本書で対象となっている地域は、第一次全国総合開発計画で目指された「拠点開発」としての新産業都市建設促進法(六二年)の指定を受けた地域であり、その意味では、本書は新産都市盛衰の現時点での総括として読むこともできよう。しかし、本書の庄巻は、地域の歴史的形成(繊維工業段階から重化学工業段階に至る)の中で、諸個人の生産・労働—生活過程を照射し、実に詳細なモノグラフにまとめている点である。企業・組織、階級・階層、都市・農村、地域社会(町内会)・家族等が個別的にでなく、総合的に説明・分析され、このような展開は、地域調査研究の目指すべき一つの方向として、教えられるところが多い。その内容について、ここで詳細に触れることができないのが、非常に残念である。

尚、共同研究を遂行することに伴う困難さを常に感じている筆者は、先の炭鉱都市夕張の調査研究に続いて、今回の御仕事の成就に心から敬意を表したい。

(橋本 和幸)